各山組特記事項

青海山「神霊矢口渡 頓兵衛住家の場」

「神霊矢口渡」は、青海山では近年概ね 30 年ごとに執行している伝統の外題であり、昭和 26 年、昭和 41 年、平成 5 年に続き、戦後 4 回目の上演となる。
約 30 年前の平成 5 年に「頓兵衛」「お舟」「うてな」を演じた 3 人の役者のそれぞれ子息が、今回父親と全く同じ役柄で出場するところであり、親子 2 代に渡る演技が見どころとなる。

春日山「釣女」

能狂言由来の作品で、背景に松、両袖に竹を描いた作品を「松羽目物」と呼ぶ。
「釣女」もその中の一つで「神のお告げでよき妻を娶る」、現代でいう婚活をテーマにした滑稽でユーモラスな歌舞伎作品である。
京の都から太郎冠者を連れた独身の大名が、なんとか美しい妻を得ようと祈念の為、釣好きで名高い恵比寿神社を訪れるところから物語は始まる。主従のやりとり、太郎冠者の慌てぶり や醜女の化粧や立ち振る舞い、最後はドタバタ大騒ぎで幕が下りる大変分かりやすく老若男女が楽しめるユーモア溢れる演目である。

諫鼓山「名物団子嫁献立」

振付、水口一夫先生による新作歌舞伎。
登場人物の掛け合いが楽しく、分かりやすい内容で曳山祭ファンのみならず古典歌舞伎に馴染みのない方や役者と同世代の子ども達にも楽しんでいただける演目。

月宮殿「苅萱桑門筑紫轢 加藤館守宮酒の場 玉取」

近苅萱(かるかや)とは屋根に葺く草の事です。花言葉は「純粋な愛」、轢(いえづと)とは、持ち帰る土産のとこです。さて、あらすじは、神につかえる巫女が催淫酒(いもり酒)を飲 まされて処女でなくなり死んでしまうという話です。 使者として訪れた乙女タ秀が、女之助を一目惚れして恋に落ちてしまいます。お神酒を飲むうちに、しだいに心が砕けていく様子を子どもが演じます。受け取った夜光の明珠が真っ黒、事態の重大さから、自ら手負いになったあとの、父親とのやりとりが見もの。実はいもり酒によって乱れる前から女之助に惚 れて、心が汚れていたのよ、と告白するあたり、切ない乙女心が切々と伝わってまいります。